

令和6年度 有玉小学校自己評価書

(「よりよい有玉小づくりのためのアンケート」児童・保護者・教員回答より)

本年度の教育活動について、児童・保護者・教職員にアンケート調査を行い、達成状況について自己評価を行った。また、アンケート結果を受けて、次年度以降重点的に取り組むことを話し合い、対策を検討した。

◇ アンケートは15項目から1つ選ぶ形で行った。アンケート結果は、15項目のそれぞれを選んだ割合をグラフで表した。

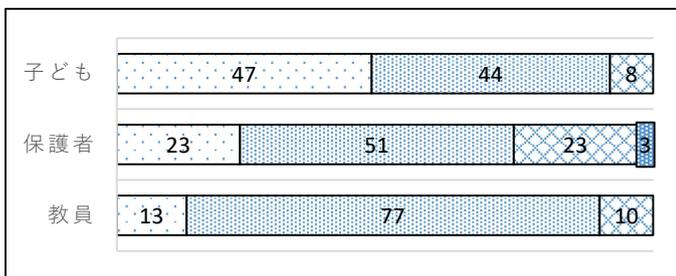
□できている □だいたいできている □あまりできていない □できていない

1【確かな学力】「自ら考え、学び合う子の育成」

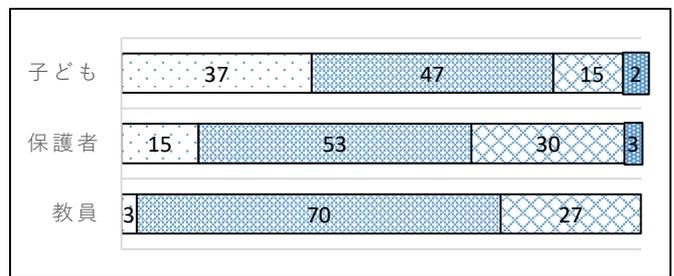
◎ 表現力や思考力を身に付けさせ、個別最適な学びや協働的な学びを通して自分の考えを広げ、伝えることができる子を育てる。

☆ 目標：85%

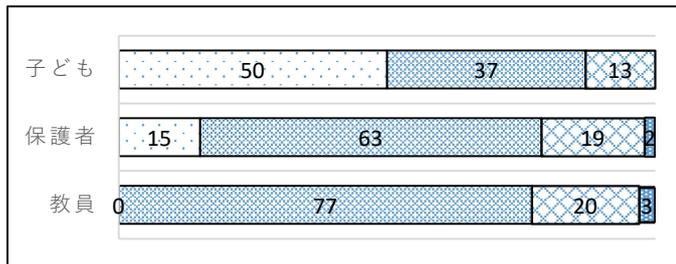
(1) 考えを書いたり言葉で伝えたりできている。



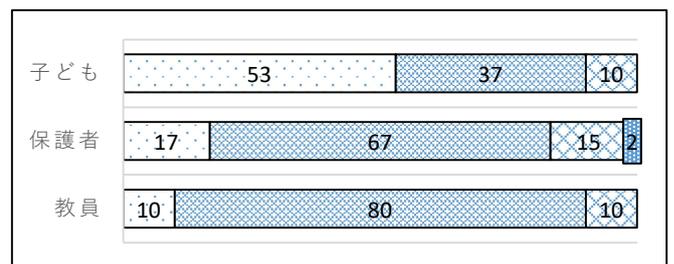
(2) 考えを分かりやすく相手に伝えることができている。



(3) 自分の考えを確かなものになっている。



(4) 学びの方法を選び、解決に生かすことができている。



< 成果と課題 >

- 今年度も授業の中で、個別最適な学びと協働的な学びを一体的に取り入れたことにより、子供一人ひとりがしっかりと自分の考えを持つことができた。
- 保護者や教職員は「児童が学びの方法を選び、解決に生かすことができている」と感じている。昨年度の割合を大きく上回っている。(保68%→84%、教79%→90%)
- 保護者や教職員は、児童が自分の考えを分かりやすく伝えることに課題があると感じており、今年度についても「できている」「だいたいできている」の割合が70%となっている。

↓

< 課題への対策 >

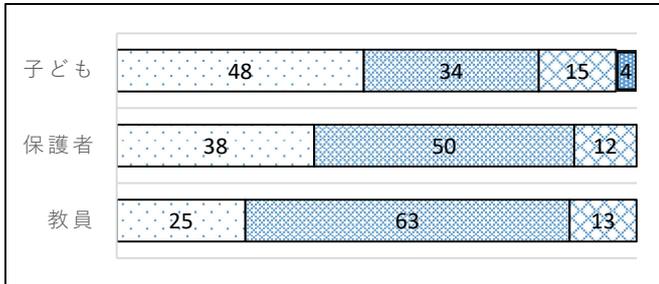
- ① 「わかりやすく伝える」ために、自分の考えを伝えるための資料の作成能力を育成を図っていく。(ノート指導、写真・動画・プレゼンテーションの活用など)
- ② 来年度も「学び方を学ぶ」経験を積み上げることを大切に、既習事項を活用する場面を意図的に設定していく。

2【豊かな心】「自らかかわり、認め合う子の育成」

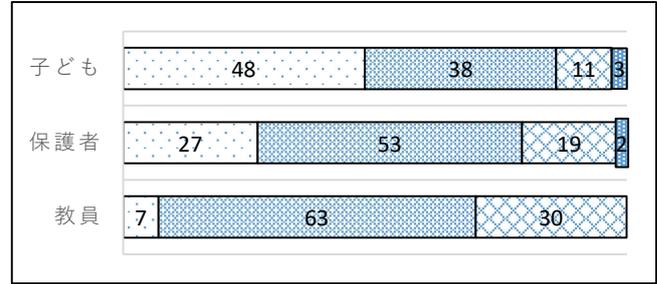
◎ 振り返ったり、認め合ったりする場を増やし、自信をもって自分や友達のよいところを言える子を育てる。

☆ 目標：100%

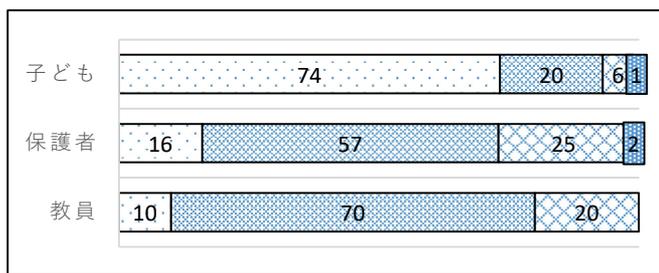
(1) 自分や友達の良いところを見つけることができる。



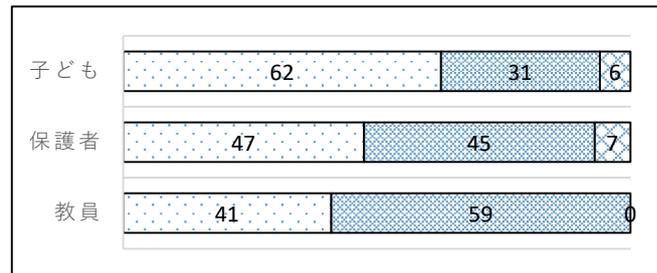
(2) 「ふわふわ言葉」を使っている。



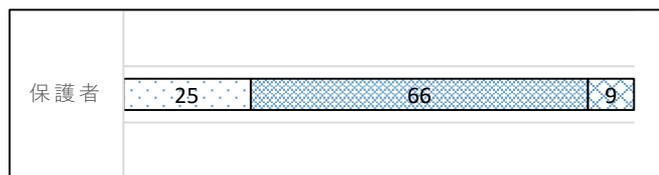
(3) 自分で考えて行動することができる。



(4) 「ありがとう」を言ったり言われたりしている。



(5) 学校は子供の困り感に寄り添い、適切に対応している。<保護者>



<成果と課題>

- 「ありがとう」については、児童も保護者も教員も「できている」と感じている。「ありがとう」が有玉小全体に定着しつつあると感じる。
- 3分間ボランティア、係活動、委員会活動などでは、学校がより良くなるために考えて行動することができる児童が多い。(94%) 昨年度も評価が高かったことから、児童全体に自主的な行動が身に付いていると考えられる。
- 「ふわふわ言葉」については、昨年度より、児童「できた」「大体できた」の評価が下がっている。(94%→86%) また、保護者と教員の評価は75%となっており、言葉遣いの乱れが心配される。学校全体として、改善に努める必要があると感じる。

↓

<課題への対策>

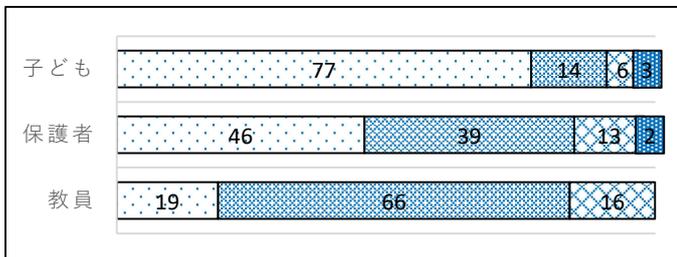
- ① 「ふわふわ言葉※」の指導について継続的に指導していくことに加え、来年度は『「ふわふわ言葉」強化月間』を設定し、児童も教員も日常生活における言葉遣いを意識する。
※人を傷つけない言葉、励ましの言葉、温かい言葉など
- ② 学校をよりよくする活動に児童が主体となって取り組むことができるように、委員会活動、係活動などを充実させていく。

3【健やかな体】「自ら鍛え、高め合う子の育成」

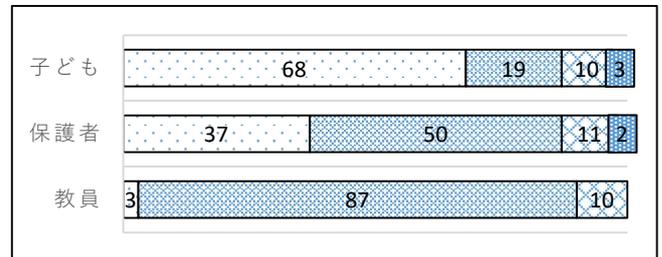
○心身の健康のために、自ら鍛え、仲間と共に高め合い、進んで運動に親しんだり健康や安全に気を付けて生活したりしようとする態度を育てる。

☆ 目標：90%

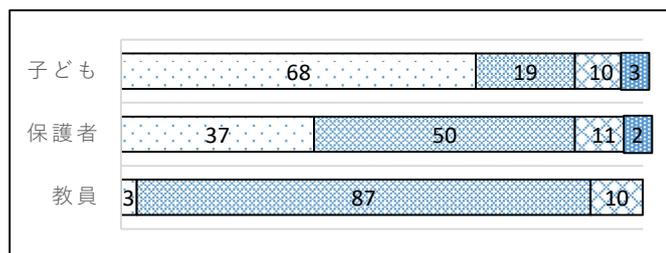
(1) いろいろな運動の楽しさを実感している。



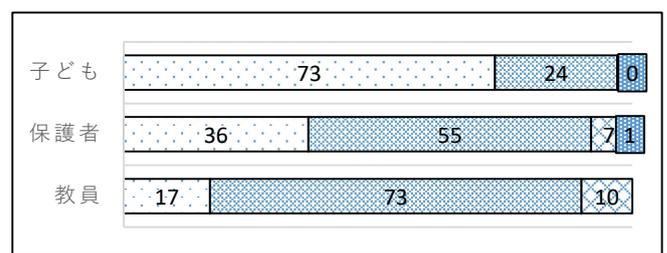
(2) 仲間と共に運動に取り組んでいる。



(3) 心身の健康の意識を高めている。



(4) 安全への意識を高めている。



< 成果と課題 >

- 体育の授業では、個に応じたためあてを持ち、楽しく運動に取り組んでいる様子が見られる。その様子は、保護者にも伝わっていると感じられる。
- 安全な行動について、多くの児童、保護者、教員が「できている」「大体できている」と評価をしている。昨年度に比べて、安全への意識が大きく高まった。

(78% → 92%)

- 児童も保護者も教員も、心身の健康の意識を高めていると感じている。自分の健康に目を向けて調整をしたり、心の状態を整えるための方法を実践したりしていることがうかがえる。

- 一定数の児童が、心身の健康の状態について不安があると考えられる。

↓

< 課題への対策 >

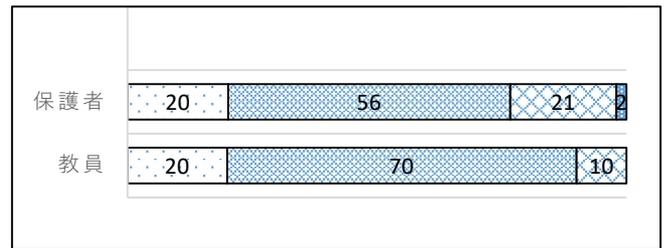
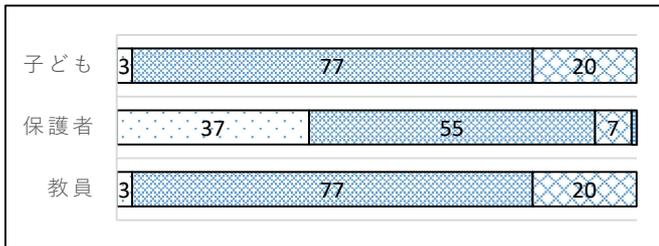
- ① 授業だけでなく、委員会イベントや「体力アップコンテスト」などを活用し、楽しく運動に取り組むことができる機会を設けていく。
- ② 今年度に引き続き、実践的な各種訓練を積み重ね、児童も教員も防災や安全に対する意識を高める。
- ③ 「レジリエンスを高める」をキーワードに心の健康づくりに取り組む。心の元気がない時の対処方法や、良好な人間関係を築くための方法について理解を深め、自分で調整する力を高めていきたい。

4【未来創造への人づくり】 【市民協働による人づくり】

- キャリア教育を核とした人づくりの推進
- コミュニティスクールを基盤とした、家庭・地域との連携。

(1) 夢や目標に向かって努力している。

(2) 家庭や地域との連携が成長につながっている。＜保護者・教員＞



<成果と課題>

- 「夢や目標に向かって児童が努力している」について、児童、保護者、教職員の約90%が「できている」「だいたいできている」と回答している。児童の夢や目標を多くの大人が見守っていることが分かる。
- 家庭や地域との連携が、児童の健やかな成長につながっていることが分かった。有玉小の児童が周りの大人に大きく支えられて成長している。



- ① 学校運営協議会との連携。
- ② 「地域のボランティア」（授業への参加、昼休みの見守り、登下校の見守り活動など）を依頼し、学校と地域、保護者が子供の成長を支える体制をより強化していく。